



2024年8月発行

恵那県事務所振興防災課 家庭教育担当 大島
〒509-7203 恵那市長島町正家後田 1067-71

TEL 0573-26-1111〈内線 208〉

FAX 0573-25-7129

MAIL oshima-akihiro@pref.gifu.lg.jp

「家庭教育なう」は、恵那県事務所のHPからご覧いただくことができます。QRコード→



恵那市民講座 大学との連携で家庭教育を推進

中京学院大学連携講座 子育て講演会

家庭でできる子どもの心と自信を育む関わり方

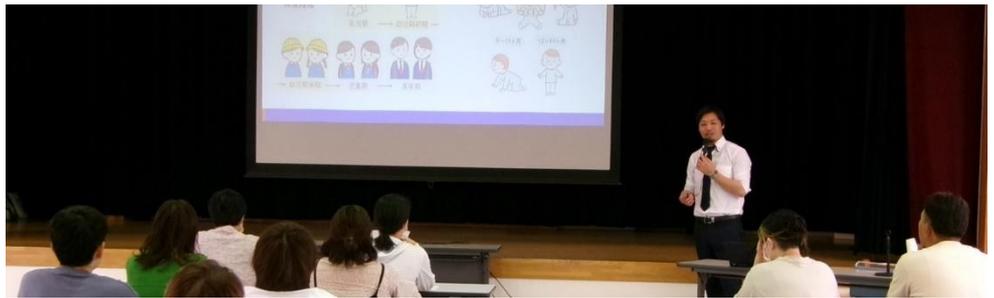
日時 令和6年6月22日(土) 10:00~11:30

講師 江畑 慎吾 准教授(中京学院大学短期大学部、岐阜県教育委員会 SC スーパーバイザー)

会場 武並コミュニティセンター

「親の笑顔は子どもの笑顔」心の専門家からの子育てエール

恵那市では、市民講座を大学と連携して実施しています。今回は、恵那市教育委員会社会教育課主催による子育て講演会が行われました。講師は、岐阜県教育委員会スクールカウンセラースーパーバイザーでご活躍の江畑慎吾先生です。先生は、カウンセラーとして、保育・教育現場を中心に年間100件以上のカウンセリングを実施してみえます。今回、参加された方は、保育園から小学校のお子さんをおもちの皆さんが多く、計19名の方が先生のお話に耳を傾けました。



江畑先生からは、「家庭でできる!子どもの心と自信を育む関わり方」と題した資料とプレゼンを提示され、わかりやすく具体的な例をあげてお話しくださいました。ベースになったのは、子どもの心身の発達についてです。ただ、個人差もあるので、それが絶対正しいとまでは言いきれないとも教えて

ていただけました。お話の内容の一部を紹介します。

□愛着の形成は、今後の成長に大きな影響 →

- 1) 子どもとのスキンシップ
- 2) 気持ちを言語化して受け止める(感情の反射)
- 3) 叱る際は、行動のみ+その場限り

□コントロール感、意欲や自信に繋がる →

だから、トイレトレーニングはすごく大事
少し我慢して、自分の意図したタイミングで狙った場所へ
基本は、ほめるオンリー

愛着の土台が形成されるからこそ、
子どもはチャレンジでき、対人関係が可能になる
*個人差が大きい

自己コントロールと自律感の獲得
できた!やれた!
自信と意欲は成功体験からしか生まれない

【参加された方の感想を紹介します】

心に残る言葉がたくさんありました。「私のスーパーな10回のカウンセリングより、親(保護者)の『愛している』のほうが効果があります。」「子育てほど、遅延強化、時間がかかるものです。」などなど、特に愛着の大切さ、心の安全基地について具体的な例をあげて、子どもへの接し方、声かけのコツを教えていただけて、とてもよかったです。

【ここを学びたい】

- ・自ら足を運んで子育てについて学ぶ
日頃から、子育てについて疑問に思っていることを主体的に学ぼうとする参加者でした。子育てについて学ぶと子どもがより愛おしく感じられます。
- ・心の専門家とつながる
質疑応答はありませんでしたが、講演会が終了した後、先生の計らいで、参加者のプチ懇談がはじまり、先生に日頃の疑問が直接伺えました。



恵那市立武並こども園 行事+体験活動参加型
親子陶芸教室 抹茶茶碗づくり

日時 令和6年6月17日(月) 9:35~11:30
講師 保母 重徳さん(陶芸家・恵那市笠置町在住)
参加者 年長園児の親子24組



親子で抹茶茶碗作り、クリエイティブな体験となりました

武並こども園では、年長園児の活動を保護者が参観する園行事を行いました。

保護者が参加しやすいように、一日のメニューを次のように工夫されました。

- 9:00 親子リズム遊び
 - 9:30 抹茶茶碗作り
 - 13:30 クラス懇談会
 - 15:00 手作りおやつ
- 内容は盛りだくさんでした。



抹茶茶碗の大きさは子どもの膝の大きさ



先生の声かけてアイデアがわいてきます

園長先生、副園長先生を始め、園の先生方が工夫され「園と親子の絆を深める参観行事」となりました。その中の「親子抹茶茶碗作り」は、長年続いている伝統の親子活動です。講師の保母重徳先生は、地元の陶芸家で、子どもから大人まで、幅広く指導されています。

多くの子どもにとって、初めての「抹茶茶碗」作りでした。始めに、土台となるお碗の大きさを決めました。左の写真のようにお子さんの膝が茶碗の大きさになります。焼き上げると15%ほど縮むことにはなりますが、大人になってから、自分の膝の大きさを味わえます。子どもはひんやりとした粘土の冷たさを体験できました。その後、高台(こうだい)の部分作り、飾り付けの工夫の仕方などを習いました。

最初は、どうやって作るかわからなかった子ども、粘土に触っていると、イメージが膨らみ、創造力が引き出されているようでした。時間と共に、創作活動に集中していきました。ふだん触っている油粘土と違いひんやりとした触感を確かめるように作業をしていました。保母先生が「お母さん方、これはあくまでも子どもの作品ですから、大人が作らないように(笑)。」という声かけをされるぐらい、親も作品作りにのめりこんでいる様子が伺えました。親も子どもに「教える」というよりは、「ここはこうしたらどう?」という「引き出す」声かけを心がけている方が多くみえました。親子の協働作業で、世界に一つしかない抹茶茶碗ができました。1月にはこの抹茶茶碗を使用して「親子お茶会」が開催されるそうです。

【参加された方に感想を伺いました】

・親子で相談しながら、抹茶茶碗づくりができ、とても楽しかったです。親子が触れ合えるとても良い時間となりました。実は、この子が一番下の子どもで、私にとっては3回目の「抹茶茶碗作り」でしたが、一人一人、違って、それぞれの個性に合わせた抹茶茶碗作りができました。子どもは、竹串にイメージを引き出され、お団子のようなものをつけたがったのですが、立体的になってしまっているので、それを半分にして、イメージを変えず、くっつけやすくなるのが私の仕事でした。家で、3つの抹茶茶碗を並べて飾ったら壮観になると思います。

【ここを学びたい】

・親子で創造活動

陶芸のもつ教育的な意味を体験できる取組でした。子どもも親も粘土に触れることで、創造力がかきたられます。子どもが約1時間半にわたり集中した活動をしていました。親も子どもも協力してこんなに集中する機会はなかなかないのではないかと思います。

・園行事に子育てについて学ぶ場を

参観の内容(体験活動、懇談会等)を工夫し、親子の絆作りや、子育てについて学ぶ場を設定していました。保護者の参加率もほぼ100%に近く、園の働きかけにたいへん協力的でした。

県の家庭教育推進事業の紹介

東濃地区第1回小・中・高・特生徒指導連携強化委員会 兼 第2回家庭教育推進会議

中津川市立坂本中学校 タウンミーティング 「仲間っていいなあ!と感じたこと」

日時 令和6年6月19日(水) 12:50~16:00
会場 中津川市立坂本中学校
参加者 各種団体代表93名、3年生学年合唱(104名)、2年生タウンミーティング(139名)

直接対話で感じたのは、坂本中の教育の「確かさ」でした



参加者 賞賛 思いの伝わる 校歌・平和の鐘 3年生学年合唱

日程

- 1 オープニング合唱 坂本中学校3年生
- 2 全体会 挨拶
坂本中学校 水室 武志 校長
東濃教育事務所 星野 健 所長
- 3 授業参観
- 4 生徒指導連携強化委員会
- 5 タウンミーティング 坂本中学校2年生
テーマ「仲間っていいなあ!と感じたこと」
- 6 家庭教育推進会議
岐阜県環境生活部 県民生活課
若森美恵子 課長補佐
- 7 助言
岐阜県教育委員会 学校安全課
京谷貴幸 課長補佐



語る 坂本中生 修学旅行の取組



疑問を討議 先生と仲間と 社会科



ICTの活用 自分の学びづくりに



活気あるコミュニケーション活動 英語科

90名を越える参観者の団体内訳

主な参加団体・協議会

- 1) 東濃子ども相談センター
 - 2) 少年センター
 - 3) 児童養護施設代表
 - 4) 東濃地区公立幼稚園長会
 - 5) 管内各警察署生活安全課
 - 6) 東濃相談員協議会
 - 7) 岐阜地方法務局
 - 8) 少年警察ボランティア
 - 9) 東濃人権擁護委員協議会
 - 10) 各市福祉関係課
 - 11) 各市保護司会
 - 12) 恵那・東濃県事務所青少年育成担当
 - 13) 青少年育成推進指導員
 - 14) 各市教育委員会生徒指導担当者
 - 15) 社会教育振興協議会
 - 16) 各市家庭教育担当者
 - 17) スポーツ少年団連絡協議会
 - 18) 小・中・高・特生徒指導担当校長
 - 19) 東濃子ども会連合会
 - 20) 主幹教諭(生徒指導担当)
 - 21) 多治見地区高等学校PTA連合会代表
 - 22) 小・中・高・特生徒指導主事地区代表
 - 23) 恵那地区高等学校PTA連合会代表
 - 24) 東濃地区小中学校PTA連合会代表
 - 25) その他児童生徒の健全育成に関わる方や団体
- 主催 岐阜県教育委員会、岐阜県

県の家庭教育推進を語る若森課長補佐→



タウンミーティングで交流する10Gの皆さん

参加者が楽しみにしていたのは、中学生とのタウンミーティング(直接対話)です。左記の80名を越える各種団体の代表と中学生がテーマについて、直接意見を交換するものです。坂本中学校2年生生徒が、16のグループに分かれ、大人と「仲間っていいなあ!と感じたこと」をテーマに交流をしました。参加した中学生は、事前に用意したプリントに自分の考え、意見を懸命にまとめていました。意見を求められると手を挙げて、立って堂々と発言していました。なかなかうまく意見が言えないときは、近くの仲間が、応援する姿もありました。直前に実施した篠島体験学習の学びを語ってくれました。

3年生の学年合唱と同様に真摯に今の思いを伝える姿がありました。日頃の学校での授業、仲間づくりでの学びの確かさを感じられました。全体会でも合唱のすばらしさ、タウンミーティングでのすばらしさが紹介されました。

家庭教育推進会議では、県民生活課課長補佐の若森さんから、「話そう!語ろう!わが家の約束運動」の取組から生まれた素敵なエピソードが紹介されました。今日の中学生の真摯な姿も学校や、家庭での温かい育みに支えられていることを感じました。



